

南の風

Shaplaneer
since 1972

vol. **287**
2020.March



INDEX

特集

シャプラニールの活動からみるSDGs

- 4 SDGsが目指す「誰も取り残さない社会」の実現
- 6 シャプラニールの取り組みとSDGsへの貢献
- 8 日本国内での活動とSDGsへの貢献
- 9 シャプラニールに求められる役割とは?
一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク 理事・事務局長
新田 英理子さん
- 10 ユース・チーム座談会
「ユース・フォーラムってどうよ?」
- 12 クラフトリンク
今後の活動に向けての進捗報告
- 13 理事・評議員からのメッセージ
変わりつつある地域防災の現場
一男女共同参画・多様性配慮の視点で
シャプラニール評議員 池田 恵子さん
- 16 PROJECT・NEWS
村全体で児童労働削減に取り組む(ネパール)
より多くの人に知ってもらうために(バングラデシュ)
- 18 全国キャラバン2019を開催しました
- 19 シャプラバ
地域連絡会「シャプラニール愛知ネットワーク」代表
裏見 登志子さん
- 20 シャテシャテ!
ソフトバンク株式会社
- 21 この人に聞きたい
ネパールに歌と光を届けたい
シンガーソングライター 佐野 碧さん
- 24 PHOTOきちゅね/ハンチカ /今月の切手
- 25 シャプラ文化部
復興進む世界遺産、カトマンズへようこそ
- 26 台風19号豪雨災害・被災地支援活動報告
- 27 お知らせ



「誰も取り残さない。」

社会のさまざまな制度や仕組みから取り残され、すべての人が持つ豊かな可能性が奪われてしまうことがあります。

私たちは人に寄り添い自らも当事者になることで社会課題の解決を進めています。

貧困のない社会の実現をめざして。

南の風 通巻287号(季刊)
2020年3月5日発行

発行元 特定非営利活動法人
シャプラニール=市民による海外協力の会
発行人 坂口和隆
編集長 小松豊明
編集 京井杏奈 原圃心 宮原麻季
デザイン 柴田篤元(matricaria.)
印刷 株式会社上毛印刷

東京事務所(火曜から土曜 10:00~18:00、日曜、月曜、祝日定休)
〒169-8611 東京都新宿区西早稲田2-3-1 早稲田奉仕園内
TEL 03-3202-7863 FAX 03-3202-4593
E-mail info@shaplaneer.org
Web <https://www.shaplaneer.org/>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

特集

シャプラニールの 活動からみるSDGs

世界が直面する多種多様な課題を解決し、「誰一人取り残さない (Leave No One Behind)」社会の実現のために、持続可能な開発を目指す2030アジェンダが2015年9月に国連で採択されました。その中で「持続可能な開発目標」、通称SDGsが定められ、2030年までの各ゴールの達成を目指し、国際社会が取り組みを続けています。

シャプラニールでも、「誰も取り残さない」社会の実現を目指し、バングラデシュとネパールで長年活動を続けてきました。私たちの活動がSDGsとどのように関連し、どのくらい貢献しているのかを今回の特集で改めて確認してみたいと思います。

文／鈴木 香緒理 (海外活動グループ)

「残さない社会」の実現

注:「国連ミレニアム開発目標報告2015-MDGs達成に対する最終評価」によると、以下のような成果が報告されている

- 1日1.25ドル以下で暮らす人々の割合は、1990年の47%から2015年には14%まで減少
- 開発途上地域における栄養不良の人々の割合は、1990年から2015年にかけてほぼ半分に減少
- 開発途上地域における小学校の純就学率は、2000年の83%から2015年には91%まで上昇
- 乳幼児死亡率は、1990年の1,000人あたり90人から2015年には1,000人あたり43人へと改善
- 妊産婦死亡率は1990年以降45%減少
- HIVの新たな感染者数が2000年から2013年間で約40%低下

出典

- 外務省「JAPAN SDGs Action Platform」 <https://www.mofa.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>
- 独立行政法人国際協力機構「ミレニアム開発目標 (MDGs) の達成状況」
https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/achievement_MDGs.html

のアイコンの大きさを表すと…?



先住民サンタルの子どもたちへの教育支援 (バングラデシュ)



学校での地震防災教育 (ネパール)



JANIC理事・スタッフ合同合宿の様子 (日本)

SDGsが目指す「誰も取り

2030アジェンダとSDGs

SDGsの正式名称は「Sustainable Development Goals」。その頭文字をとって「エス・ディー・ジー・ズ」と発音します。国連に加盟する193カ国が2030年までに達成を目指す17のゴール、それを具体化した169のターゲット、230のグローバル指標が定められています。

SDGsは何を目指しているのか

SDGsは、国際社会が直面している貧困、飢餓、エネルギー、気候変動、感染症、経済成長といった多岐にわたる課題を解

決し、持続可能な社会の実現を目指しています。SDGsの前身にあたる、2015年までに達成を目指したMDGs (Millennium Development Goals、ミレニアム開発目標) では、貧困削減、初等教育の達成、乳幼児死亡率や妊産婦の健康状態の改善、HIV感染者の減少等、一部のゴールにおいて一定の成果を見せました(注)。しかしながら、経済格差やジェンダー不平等の問題、各地で頻発する紛争、深刻化する気候変動等、国際社会には依然として多くの課題が残されています。これらの課題を解決し、開発から取り残されている人々、特に女性や子ども、高齢者や性的マイノリティ等「最も取り残されている人々」の権利を守るための取り組みが、今必要とされています。

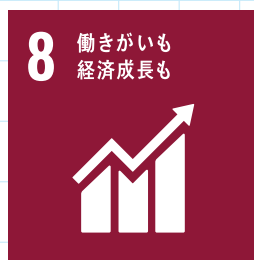
シャプラニールの貢献度をSDGs



インフラ建設に参加する
コミュニティの住民(ネパール)



フェアトレード手芸品制作の様子
(ネパール)



2.災害に強い地域をつくる

バングラデシュではバゲルハット県シヨロンコラ郡でサイクロン防災事業、ネパールは南部チトワシ郡で洪水防災事業、及び首都カトマンズ近郊で地震防災事業を実施してきました。いつ起こるかかわからない災害に備え、自助・共助・公助の取り組みでコミュニティの防災力を高める活動をしています。

- サイクロンに強い地域・人づくりプロジェクト(バングラデシュ)
- 洪水に強い地域づくり/土砂崩れに負けない地域プロジェクト(ネパール)
※2019年11月終了、洪水に強い地域づくりプロジェクトは2020年2月より第三期事業開始
- 地域で命を救う、地震復興&防災プロジェクト(ネパール) ※2019年9月終了



ネパール・洪水対策のためのコミュニティ防災管理委員会との対話

該当するゴール	ターゲット	指標	シャプラニールの活動	どのような貢献をしているか
<p>ゴール1:あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる</p>	<p>ターゲット1.5:2030年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靱性(レジリエンス)を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。</p>	<p>指標1.5.1:10万人当たりの災害による死者数、行方不明者数、直接的負傷者数</p>	<p>洪水に強い地域づくり/土砂崩れに負けない地域プロジェクト(ネパール)</p>	<p>洪水発生による人的・物的被害が発生しないことを目指す。→事業後、事業地において人的・物的被害はゼロ。 インフラ設置により、約500世帯、450ヘクタールの農地が洪水からの被害を受けずに済んだと考えられる。</p>
<p>ゴール11:包括的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する</p>	<p>ターゲット11.5:2030年までに、貧困層および脆弱な立場にある人々の保護に重点を置き、水害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。</p>	<p>指標11.5.1:10万人当たりの災害による死者数、行方不明者数、直接的負傷者数</p>	<p>地域で命を救う、地震復興&防災プロジェクト(ネパール)</p>	<p>地震災害による死者数、負傷者数および建物の損害を最小限に抑えることを目的とし、対象地域の防災能力の強化を目指した。カトマンズ盆地内5区を対象に防災知識の普及、救命用具の設置などを行った。対象世帯数:13,797世帯(56,882人)</p>
<p>ゴール17:持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化</p>	<p>ターゲット17.17:さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</p>	<p>指標17.17.1(b):市民社会パートナーシップにコミットしたUSDドルの総額</p>	<p>サイクロンに強い地域・人づくりプロジェクト(バングラデシュ)</p>	<p>適切な地域状況の把握に基づいた防災計画が策定され、その計画に沿った防災・減災行動が三助の連携のもとに実践された。JICA資金による支援総額:18,527,000円(2018年度)</p>

3.フェアトレードを通じて共生できる社会をつくる

シャプラニールのフェアトレード活動「クラフトリンク」は、約45年前に始まりました。バングラデシュとネパールで生産パートナー団体が製作した手工芸品や石けん、コーヒー等のフェアトレード商品を通じて、日本の市民の皆様にも南アジアの伝統や文化、人々の暮らしを伝え、互いに学び共生できる社会を実現することを目指しています。また、生産者が安定した収入を得るようになり、仕事を通じて自信や尊厳を取り戻すことを目的としています。



バングラデシュ・パートナー生産団体ジュートワークスの生産者

該当するゴール	ターゲット	指標	シャプラニールの活動	どのような貢献をしているか
<p>ゴール8:包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する</p>	<p>ターゲット8.5:2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。</p>	<p>8.5.2:失業率(性別、年齢、障害者別)</p>	<p>クラフトリンクでの手工芸品販売(バングラデシュ・ネパール)</p>	<p>2013-2017年の平均仕入額は153,683US\$=16,751,447円(US\$1=109円)であった。そのうち人件費が3割、フルタイムで働く生産者の月額給与を9,000円と仮定して試算すると、約51人の継続的な雇用を創出したことになる。</p>

シャプラニールの 取り組みとSDGsへの貢献

シャプラニールは、「子どもの権利を守る」「災害に強い地域をつくる」「フェアトレードを通じて共生できる社会をつくる」という3つの柱に基づいて、バングラデシュとネパール、そして日本で活動を続けています。わたしたちの取り組みが、具体的にSDGsのどの部分の達成に貢献しているのか、該当するゴールとターゲット、その達成度を測るために設定された指標に照らし合わせてみます。

※各活動は複数のゴールと関連していますが、その中でも特にかかわりが深いゴールに絞って紹介します。

1.子どもの権利を守る

バングラデシュで家事使用人として児童労働に従事する少女たちの権利が守られるよう、教育支援や啓発活動を行っています。また、文字を持たず、ベンガル語を母語としない先住民の子どもたちが小学校で中退しないよう支援を行ったり、川の中州に住む子どもたちが他の地域と同じように教育を受けられるよう支援を行い、取り残された環境にいる子どもたちが平等に教育にアクセスできるよう活動しています。

- 羽ばたけ、家事使用人の少女プロジェクト (バングラデシュ)
- 家事使用人の少女たちに素敵な未来をキャンペーン (バングラデシュ)
- みんなの学校プロジェクト (バングラデシュ)
- 明日も学校へ行こう!プロジェクト (バングラデシュ)



バングラデシュ・支援センターで裁縫を学ぶ少女

該当するゴール	ターゲット	指標	シャプラニールの活動	どのような貢献をしているか
<p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>ゴール4: すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>	<p>ターゲット4.1: 2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ有効な学習成果をもたらす、自由かつ公平で質の高い初等教育および中等教育を修了できるようにする。</p> <p>ターゲット4.5: 2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子供など、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。</p>	<p>指標4.1.1: (i) 読解力、(ii) 算数について、最低限の習熟度に達している次の子供や若者の割合 (性別ごと) (a) 2~3学年時、(b) 小学校修了時、(c) 中学校修了時</p> <p>指標4.5.1: 詳細集計可能な、本リストに記載された全ての教育指数のための、パリティ指数 (女性/男性、地方/都市、富の五分位数の底/トップ、またその他に、障害状況、先住民、紛争の影響を受けた者等の利用可能なデータ)</p>	<p>明日も学校へ行こう!プロジェクト (バングラデシュ) ※中州の子どもたちの教育支援</p> <p>みんなの学校プロジェクト (バングラデシュ) ※先住民サンタルの子どもたちの教育支援</p>	<p>対象地域内12校の生徒4,829人が主な対象。学校運営協議会の活動強化や教育の質の向上に取り組んだ。対象地域の就学率は76% (2015) から99% (2019) まで向上。5年生修了試験合格率は86% (2015) ⇒86% (2018) と変化がなかった。※2018年に試験の形式が大幅に変更となったことが影響していると考えられる。</p> <p>2016-2018年の3年間、8つのユニオンにある14の公立小学校を対象に先住民の子どもたちの教育環境を整備するための取り組みを進めてきた。2018年の学期末試験 (1-5年生) では、多数を占めるベンガル人の子どもの97.8%が試験を受け、そのうち71.9%が合格したのに対し、先住民の子どもは99.3%が試験を受け、そのうち78.3%が合格した。</p>
<p>8 豊かになりつつも経済成長を</p> <p>ゴール8: 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用 (ディーセント・ワーク) を促進する</p>	<p>ターゲット8.7: 強制労働を根絶し、現代の奴隷制、人身売買を終わらせるための迅速で効果的措置の実施、最も劣悪な形態の児童就労の禁止・撲滅を保障する。2025年までに少年兵の徴募や利用を含むあらゆる形態の児童就労を撲滅する。</p>	<p>指標8.7.1: 児童労働者 (5~17歳) の割合と数 (性別、年齢別)</p>	<p>羽ばたけ、家事使用人の少女プロジェクト (バングラデシュ) 家事使用人の少女たちに素敵な未来をキャンペーン</p>	<p>家事使用人として働く少女たちが通う支援センターを運営する地域のうち、比較的長く活動を行っているアジンプル (2009年~) 地区では、8~18歳の少女の数が146人 (2016年) ⇒125人 (2017年) と減少した。</p>

※該当するゴール/ターゲット/指標は外務省「JAPAN SDGs Action Platform」ウェブサイトより転載

日本国内での活動とSDGsへの貢献



ベンガルカレーの作り方を学ぶワークショップ

シャプラニールは日本国内でも、市民社会への啓発活動や政府、企業、NGO、民間団体など多様なセクターとの連携を通じて、SDGsが目指す「誰も取り残さない」社会をつくることを目指しています。国内でどのような取り組みをしているかをご紹介します。

多くの市民に支えられている シャプラニールの活動

シャプラニールの活動は、会員、マンスリーサポーター、ボランティア、地域連絡会など多くの支援者の皆様に支えられています。また、身の周りの不要なもので気軽に国際貢献ができる「ステナイ生活」の取り組みでは、日本全国からはがきや切手、古本等の寄付を頂き、シャプラニールの活動資金に充てています。社会人で構成されるクシクシ倶楽部、学生のユース・チーム、シャプラニール劇団といったボランティアグループの活動も活発に行われています。このように市民一人ひとりが「共に生きる」という意識を持ち、自分にできることを考え行動に移すことが、より良い社会をつくることにつながります。

多様なセクターとのネットワーク構築



NGOのネットワーク組織である特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC)に加盟しているほか、定期的にNGO・外務省定期協議会やNGO-JICA協議会に出席し、政府機関との意見交換の場を持っています。また、企業や自治体、民間団体との協働や連携を推進しています。

開発教育の実施

シャプラニールでは年に1回、スタディツアーを実施しています。2019年は8月にネパールへのツアーを実施し、5名の参加がありました。活動地を訪れることで、現地でのどのような活動を行っているかをより深く知り、ネパールの文化や暮らしに触れることができます。また、企業・学校への講師派遣や学校の受け入れを行い、シャプラニールの活動に関する講演会を開催しているほか、生活協同組合等と協働してベンガルカレー作りやノクシカタのワークショップを開催しています。



2019年ユース・フォーラムの様子

該当するゴール	ターゲット	指標	どのような貢献をしているか
 <p>ゴール4: すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>	<p>ターゲット4.7: 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。</p>	<p>指標4.7.1: ジェンダー平等および人権を含む、(i) 地球市民教育、及び(ii) 持続可能な開発のための教育が、(a) 各国の教育政策、(b) カリキュラム、(c) 教師の教育、及び(d) 児童・生徒・学生の達成度評価に関して、全ての教育段階において主流化されているレベル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 中高生が国際協力について学ぶユースフォーラムを年2回開催、48名参加(2018年度) ● バングラデシュカレー作りワークショップを全国13カ所で開催(2018年度)
 <p>ゴール17: 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する</p>	<p>ターゲット17.17: さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</p>	<p>指標17.17.1 (b): 市民社会パートナーシップにコミットしたUSDドルの総額</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● シャプラニールが受け取ったODA総額76,666,421円(2018年度) ● 日本のODAが市民社会組織を通じて拠出される割合は1.8%(2017)とDAC諸国平均(14.7%)に比べて著しく低い。こうしたODAのあり方についてJANIC等のネットワークを通じて提言活動を行っている。

*該当するゴール/ターゲット/指標は外務省「JAPAN SDGs Action Platform」ウェブサイトより転載



PROFILE

新田 英理子 (にった・えりこ)

東京の民間企業の社員教育部門に3年半勤務。退職後、環境NPOなどでの嘱託スタッフやボランティアを経て98年4月より日本NPOセンターに勤務。2014年8月から2017年3月まで事務局長。2017年4月から2019年3月まで、一般社団法人SDGs市民社会ネットワークと日本NPOセンターを兼任。主にNPOに関する相談、研修、全国大会などの企画・運営とNPO法人制度に関するアドボカシー事業を行う。また、行政や企業のNPOとの連携・協働プログラムの相談や企画運営を行う。2008年からシャプラーニールの会員。

シャプラーニールに 求められる 役割とは？

長年シャプラーニールを会員として支えてくださっている、一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク(SDGsジャパン)の理事・事務局長の新田英理子さんから、日本社会においてNPO・NGOに求める役割を踏まえ、今後シャプラーニールに期待することを伺いました。

SDGsを活用する NGOとしての役割

SDGsが採択されてから5年目となりますが、改善された項目はあるものの数値目標の達成には程遠く、国際社会は危機感を抱いています。この現状を受け止め、NPO・NGOは積極的にSDGsを活用していくことが求められています。SDGsが制定される前から「誰も取り残さない」ための活動をしているシャプラーニールは、その先駆者になれると思います。児童労働の撤廃といったSDGsで定めている目標に沿って、数値目標を設定して活動していくと良いと思います。

国内と現地の距離を埋める

現地の人々を支援の対象ではなく、同じ地球市民として、共に歩み課題解決に取り組む存在という意識で活動しているのがシャプラーニールです。国内と海外の問題は分けて考えられがちですが、海外での活動が国内での活動にとって学びになる等、実は関連しています。また、バングラデシュとネパールで活動するシャプラーニールの会員として、日本で暮らす南アジアの人々がもっと身近な存在になればと思います。国内と海外を繋ぐ役割を果たすという点で、シャプラーニールに対する期待は大きいです。

市民社会のパートナーシップの推進

ゴール17では、公的・官民・市民社会のパートナーシップの推進を目指しています。この点で、シャプラーニールが海外で培った行政連携の経験や、現地での生活の知恵や技術を日本社会の課題解決のために活かすことができるのではないのでしょうか。フェアトレードの取り組みにおけるSheソープ等の商品開発で見られたような、企業連携の取り組みも引き続き期待しています。また、シャプラーニールの会員が、SDGsに直接貢献できる活動を取り入れていくと良いと思います。

最後に

シャプラーニールは社会のさまざまな制度や開発から取り残された人々に寄り添い、すべての人々が持つ豊かな可能性が開花する社会を目指して活動しています。私たちの活動をSDGsへの貢献度という観点で見つめなおすことで、SDGsの達成を目指すことがより良い社会の実現に繋がること、より一層の取り組みが必要とされていることを再確認できました。

NPO・NGOだけではなく、政府、企業、市民社会との連携を推進し、社会全体で課題解決を目指していくことが大事です。新田さんのお話にもあったように、市民一人ひとりが、SDGsに取り組むことができる機会をつくる役割を担い、社会全体がSDGsを自分事として捉えることができるように呼びかけていきたいと思っています。